

令和 3年度

事務事業評価表 (令和 2年度 の実績評価)

記入年月日
令和 3 年 4 月 1 日

事務事業名		観光客動態調査事務				事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け				新規/継続	継続	事務事業No.	040301000553
		総合計画の施策名				単独/補助	単独	所属課	050301
		0403 観光の振興						課長名	商工観光課
政策体系	政策名	04 活力ある産業のまちづくり						グループ	商工観光グループ
	施策名	03 観光の振興						担当者名	
	手段名	01 ①観光資源の再発見とPR強化							
財務会計上の位置付け						事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		単年度繰返し (年度~)
	01	07	01	04	01	00	観光事業		☞ 期間限定の場合、総投入量を (3) 投入量の右側に記入
法令根拠									

(Do) 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
対象となる観光地 (雨引観音・酒寄みかん園)、および行祭事・イベント (真壁のひなまつり、SAKURAフェスティバル等) において観光客の動態 (入込客数) を調査する。(県からの調査委託事業)	・調査事務の受託 ・調査員への調査依頼、賃金の支払 ・調査結果の取りまとめ、県観光物産課への報告 (年4回 (5月、8月、11月、2月))
手段 雨引観音においては、5月・8月・11月・2月の平日1日・休日1日ずつ、計8日間調査員を置いて入込客数を調査する。 その他の観光地、および行祭事・イベントにおいては施設管理者、イベント主催者等に入込客数を確認している。	

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
・調査事務の受託 ・調査員への調査依頼、賃金の支払 ・調査結果の取りまとめ、県観光物産課への報告 (年4回/5月、8月、11月、2月)	動態調査日数	日	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
桜川市へ興味のある方	パンフレット送付数	人	194.00	137.00	200.00	200.00	200.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
桜川市についてPRができる	雨引観音 来訪者	人	186,849.00	96,169.00	100,000.00	100,000.00	100,000.00
	みかん園 入場者	人	25,000.00	23,000.00	23,000.00	23,000.00	23,000.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移

投入量	事業費	内訳	単位	01年度	02年度	03年度	期間限定 総投入量
				(実績)	(実績)	(計画)	
量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	58	59	59	0
	事業費計 (A)	千円	58	59	59	0	
	正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人		

事業費の内訳	02年度事業費 実績 (千円)			03年度事業費 予算 (千円)		
	07 報償費	59		07 報償費	59	
	合計	59		合計	59	

事務事業名	観光客動態調査事務	事務事業No.	40301000553	所属課	商工観光課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 観光施策に重要な基礎的資料を得るために開始された。 県の予算の縮小により調査箇所が減少された。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 実施主体である県から、本調査は観光動態を把握するため全国統一の基準で行われる重要な調査であると言われている。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
現状維持	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 市内を訪れる観光客数を把握する調査であり、市の観光動態を示す重要な基礎資料である。
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 市の観光動態を把握するため、市が実施する必要がある。
有効性	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない 現状の調査によって市の観光客数を把握できている。
	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 市内を訪れる観光客数を把握する事業が他にないので廃止はできない。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業がない。
効率性	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 県の委託事業であり、調査日数、委託費が決められているので削減余地はない。
公平性	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市内の観光客数を把握するための調査であり、受益者に負担を求めている。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																			
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	茨城県からの受託事務であり円滑に調査ができています。																			
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																			
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う → (複数回答可) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																			
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上 維持 低下</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> </tbody> </table>		成果	向上 維持 低下	コスト			削減	維持	増加				○	X			X	X	X
成果	向上 維持 低下	コスト																			
		削減	維持	増加																	
			○	X																	
		X	X	X																	
		(6) 事務事業優先度評価結果																			
		成果優先度評価結果	◎																		

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>